

商店街インフォメーションセンターの設置により、来街者の利便性向上

松山大街道商店街振興組合

機関名	松山大街道商店街振興組合〔松山大街道商店街（振）・大街道中央商店街（振）・松山銀天街第一商店街（振）・松山銀天街商店街（振）〕			
所在地	松山市湊町4丁目8番地15(松山中央商店街連合会)			
電話番号	089-998-3533			
地域概要	(1)管内人口	513千人	(2)管内商店街数	29商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	4	(2)会員数	367商店
	(3)空店舗率	2.8%	(4)大型店空き店舗数	0
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（高齢者等交流施設）
 ・商店街インフォメーションセンターの運営
 総事業費 9,900千円

【事業実施内容】

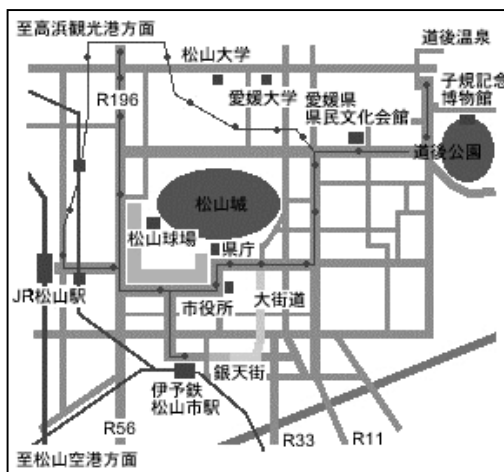
1. 背景

松山市は愛媛県のほぼ中央部に位置し、瀬戸内海に面した温暖で穏やかな地域である。政治・経済の中心的な役割を果たし、四国の中心都市として発展してきた。

近年、中心商店街を取り巻く経済環境は厳しさを増している。松山市の中心市街地も例外ではなく、郊外の大型ショッピングセンターの出店等により老舗商店の転廃業や空き店舗の発生が目立ち、空洞化が進んでいた。

そうした状況下で、中心市街地の4つの商店街振興組合（松山大街道商店街、大街道中央商店街、松山銀天街第一商店街、松山銀天街商店街）が一体的に効果的な活性化策を構

ずる必要性が高まり、平成14年度に「商店街マネジメント事業推進委員会」が設置された。平成15年度には、そのマネジメント対策事業の一環として、「まちのインフォメーション」機能の充実を目的に、空き店舗を活用して「ほっとステーション おいでんか」が設置された。平成16年度は、15年度事業を継続発展させ、さらなる活性化を図るため以下の事業を実施した。



松山市中心商店街位置図
 （松山銀天街HPより）

2. 事業内容

事業内容としては、空き店舗を活用した商店街総合案内所の継続的な運営を行ない、機能の充実と利用拡大を図ることとした。



商店街の様子

(1) 施設概要

中心市街地4商店街を1つの商店街として認識している多くの消費者の立場に立ち、中心市街地4商店街の情報を総合的に提供し、来街者のための休憩や交流のための場を提供することを目的としている。

- ・施設名称：ほっとステーション おいでんか
- ・所在地：松山市湊町3-7-11
- ・休館日：毎週水曜日
- ・開館時間：午前10時～午後6時
- ・運営体制：スタッフ1～2名在中
- ・機能：
 - ①来街者の交流、憩いの場の提供
 - ②商店街や商店、商品及び市内観光施設等の情報提供
 - ③ショッピングカート等ショップモビリティの貸し出し
 - ④公衆トイレ、ベビールームの設置
 - ⑤掲示板、ミニギャラリー、インターネットコーナー等の設置

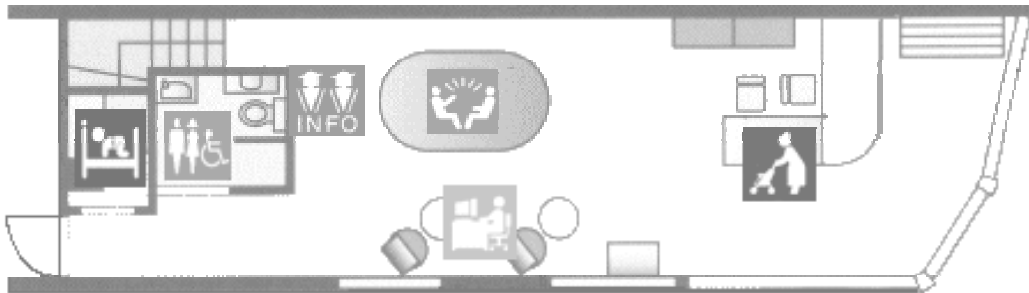


施設外観



館内の様子

商店街総合案内所 1階



総合カウンター
・商店街や施設情報提供



くつろぎスペース
・誰でも休憩が可能



トイレ
・多目的対応トイレ



コミュニティ施設
・掲示板、ミニギャラリー等



ベビールーム
・おむつ替えと授乳用



ショップモビリティ
・車椅子、シルバーカー等の無料貸付

(2) コミュニティギャラリーの新設

平成16年10月15日、「おいでんか」の2階に市民活動にも利用できるコミュニティギャラリー「サロン夢工房」がオープンした。オープニングイベントとして地元の「特産品フェア」や、商店街学生による「販売体験学習」が行われた。

サロンには約10人を収容可能なスペースがあり、会議や講座に利用できる。インターネット環境も整っており、NPOによるパソコン教室も開催されている。

(3) 教室やミニイベントの実施

施設の1階や2階のフロアもしくは壁面を用い、教室やミニイベントを実施した。

①教室・相談会

- ・高齢者サロン（毎月第一火曜日）
- ・パソコン教室
- ・点字と手話の教室
- ・手芸教室「七宝焼アクセサリー」
- ・折り紙教室
- ・スクラップブック体験教室
- ・年金相談会、福祉の困りごと無料相談会

②ミニイベント

- ・クリスマスリースコンテスト
- ・木のおもちゃの紹介と販売



パソコン教室の様子

③展示

- ・パネル展「明治を生きたヒーローたち」
- ・はたちのフォトコンテスト作品展示会
- ・百年前の捕虜と松山写真展

(4) 利用実績

①男女別来館者数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	457	487	373	849	580	405	422	412	309	515	587	448	5,844
女	593	671	426	1308	760	482	530	478	489	630	675	521	7,563
計	1,050	1,158	799	2,157	1,340	887	952	890	798	1,145	1,262	969	13,407
開催日数	26	28	25	27	27	25	28	27	25	26	24	26	314
1日平均	40.4	41.4	32	80	49.6	35.5	34	33	32	44	52.6	37.3	42.7

②年代別来館者数 (人)

区分	～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～	合計
来館者数	2,106	3,160	2,097	1,250	1,886	1,819	1,094	13,409
構成比	15.70%	23.60%	15.60%	9.30%	14.10%	13.60%	8.20%	100%

③案内件数

区分	商店	商品	場所	観光
案内件数	194件	125件	332件	201件
1日平均	0.6件	0.4件	1.1件	0.6件

④ショップモビリティの利用

区分	シルバーカー	ベビーカー	車椅子	電動カート
利用台数	4台	452台	28台	4台

【 効 果 】

1. 来街者の行動

開設以来、施設利用者が着実に増加した。特にベビーカーの貸し出しはニーズが高く、フル回転している。今までの効果から、商店街の両端に位置する百貨店と連携した中心市街地におけるベビーカーの貸し出しシステム構築の気運が高まり、具体的な協議の場を設置していく方向付けができています。

2. 商店街の組織

商店街のインフォメーション機能に加え、高齢者向けのIT講座の開設や、地域住民の交流サロン、乳幼児対象の各種事業を展開することにより、賑わいの創出が図れた。これらを継続的に自主運営事業として発展させるために、商店街で調査研究を開始している。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 人的体制

事業を実施していく上でのスタッフ体制が不十分なため、展開内容に多少の不備が生じた。

2. 店舗経営者に対する支援

店舗情報を発信しているがリアルタイムによる情報更新が進まなかった。店舗経営者との連携強化により信頼性の高い店舗情報提供が課題である。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

- ・ 事業費の大半を家賃と人件費が占めており、今後事業を拡大し発展させていくには資金面で問題が生じる。イベント等による収益確保を目指し、施設の自主運営をできる体制の構築が必要である。

【 関 連 U R L 】

おいでんかHP <http://home.e-catv.ne.jp/oidenka/>